



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社キッズベースキャンプ

5

近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化している。東京都の2008年の出生率は1.09（全国は1.37）。異年齢の子どもと一緒に遊ぶ機会は少なく、公園や神社で元気に遊びまわる子どもも少なくなった。女性の就労拡大により共働き世帯が増加しているが、地域コミュニティの目が行き届かなくなり、放課後の小学生が巻き込まれる事件や事故が多発している。保育園は子どもを夜まで預かってくれるが、小学校では早い時間に子どもが帰宅することになるため、預け先のないワーキングマザーは心配で仕事を続けることができない。これは、小学校1年生の子どもを持つ母親が避けては通れない大きな課題（“小一の壁”）である。このような状況の中、小学校における放課後保育（学童保育）に大きな関心が集まっている。

10

15

東京都世田谷区の東急田園都市線桜新町駅に、今までの学童保育とは違う「放課後の時間を消費から投資へ」をテーマにした新しいアフタースクールがある。「将来、子どもたちが自分の生きたい人生を切り開いていくための土台となる力を育成すること」を理念とする株式会社キッズベースキャンプ（以下、(株)KBC）である。学年も学校も違う子どもたちが、平日は学校が終わった午後から、夏休みなど長期休暇の時期は朝から、施設（店舗）に集まり、机に向かって勉強をし、ドッジボールやサッカー、縄跳び大会などを大勢の友達と一緒にやる。おやつの中には、自分たちでお菓子をつくる。また、放課後の安全を確保するため、マイクロバスで学校まで迎えに行き、帰りは自宅または最寄り駅まで子どもたちを送り届けるサービスも行っている。(株)KBCは、2006年5月に株式会社エムアウト（以下、エムアウト）のキッズベースキャンプ事業部（以下、KBC事業部）からスタート。現在、東京都と神奈川県東急線沿線を中心に14店舗を運営し、2009年7月時点で会員数は1,700人強になっている。

20

25

本ケースは、慶應義塾大学ビジネススクール国保祥子（D15）・田原慎介（M30）がクラス討議の資料として用いるために作成した。経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。本ケースの作成にあたっては、株式会社キッズベースキャンプ（<http://www.kidsbasecamp.com>）関係者の方々に多大なるご協力をいただきました。深く御礼申し上げます。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 国保祥子・田原慎介（2009年9月作成）